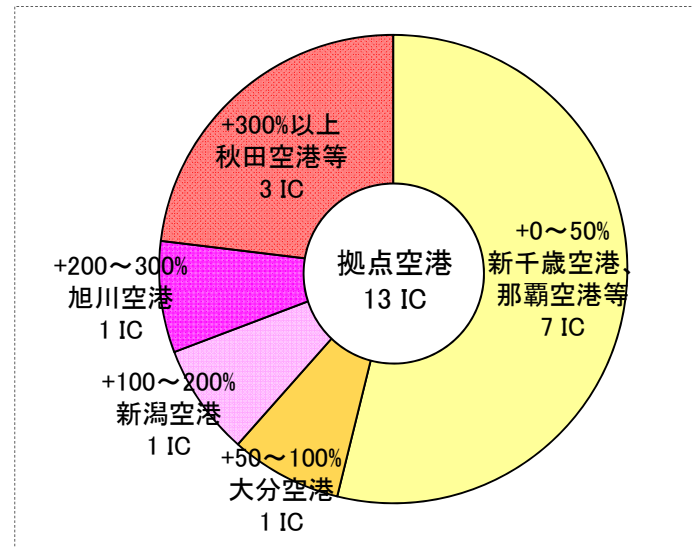
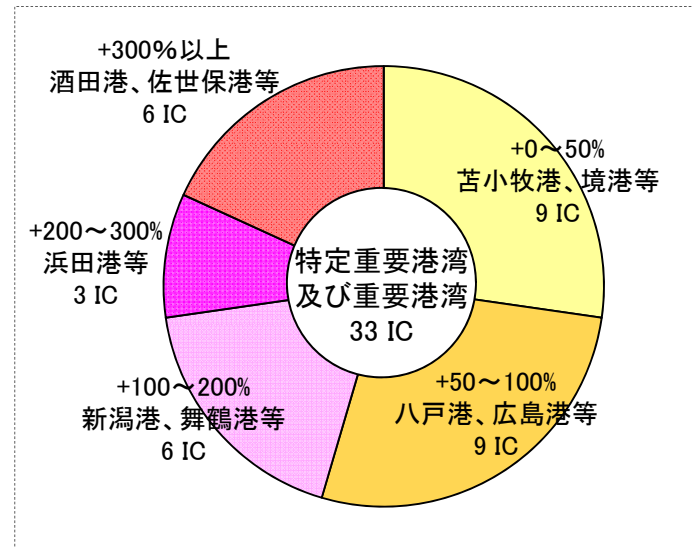
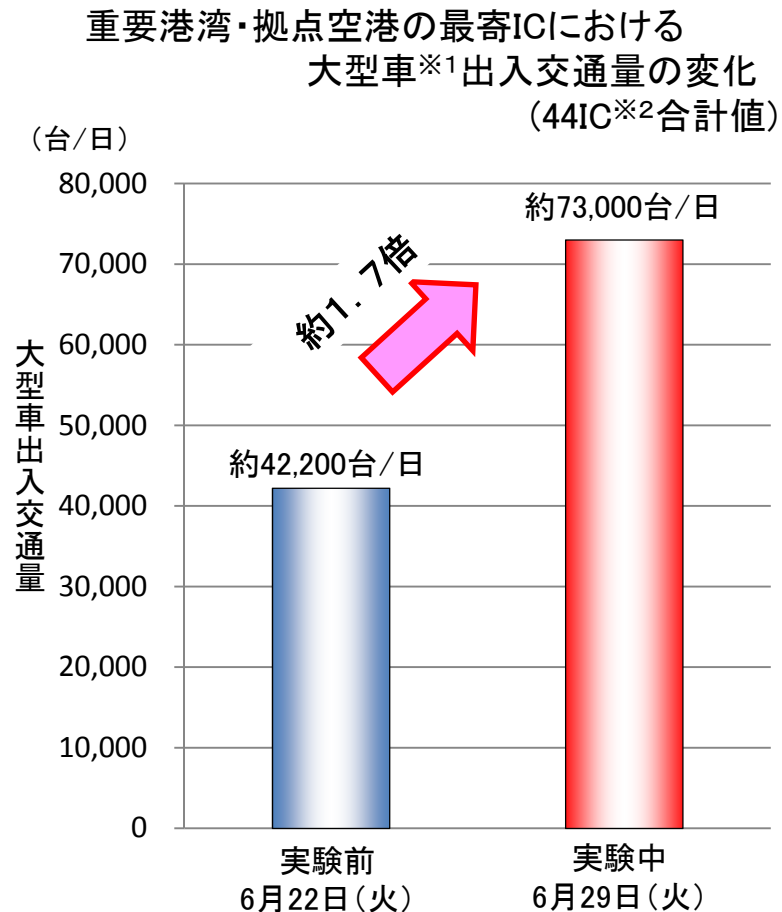


2. 実験区間周辺の物流の状況

- ・重要港湾・拠点空港の最寄ICの大型車出入交通量
- ・物流事業者ヒアリング調査結果

物流拠点の最寄ICにおける大型車出入交通量

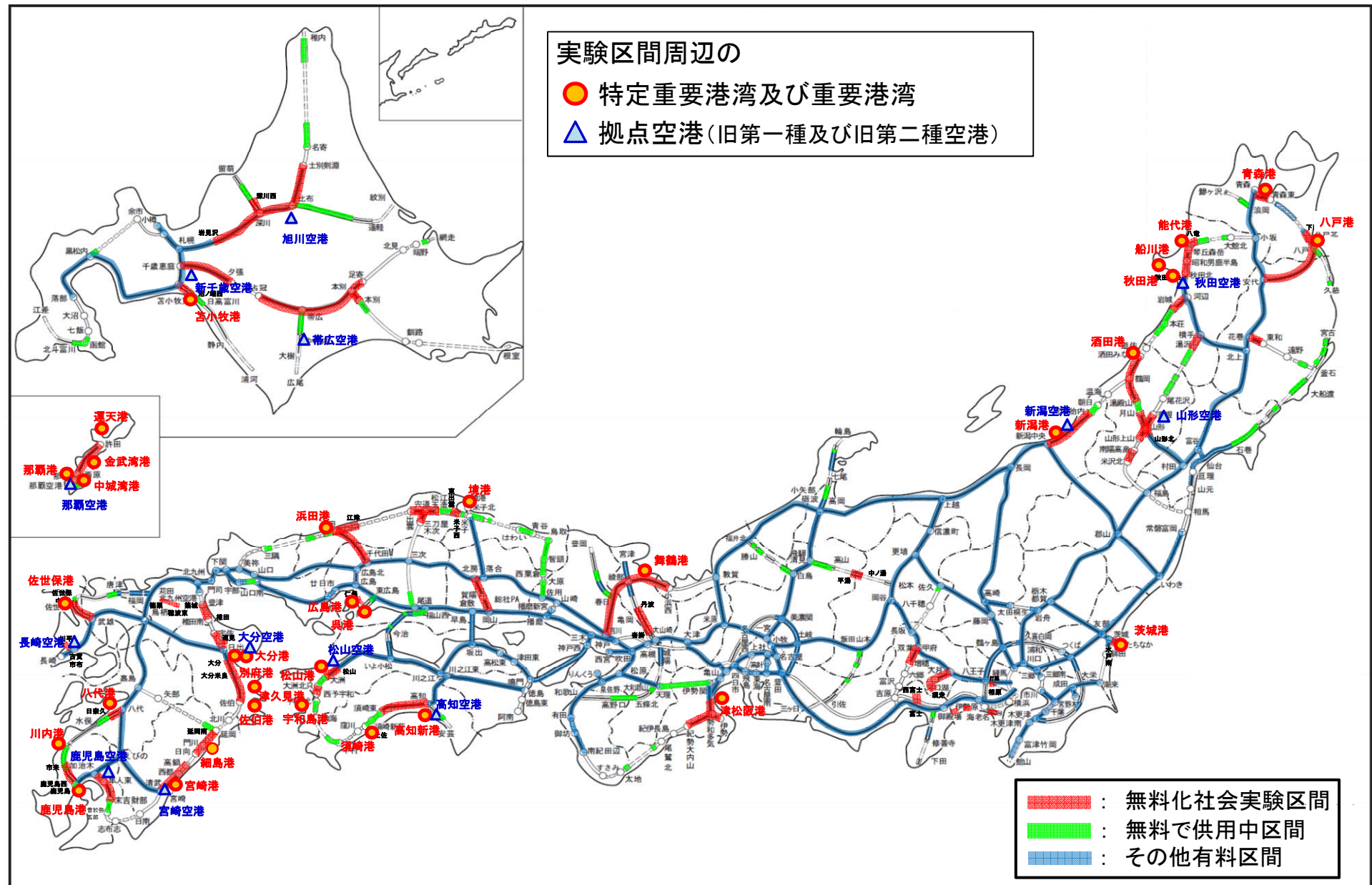
○ 重要港湾・拠点空港の最寄ICにおける大型車の出入交通量は、約1.7倍に増加



※¹ 大型車とは、料金車種区分における中型車・大型車・特大車の合計をさす

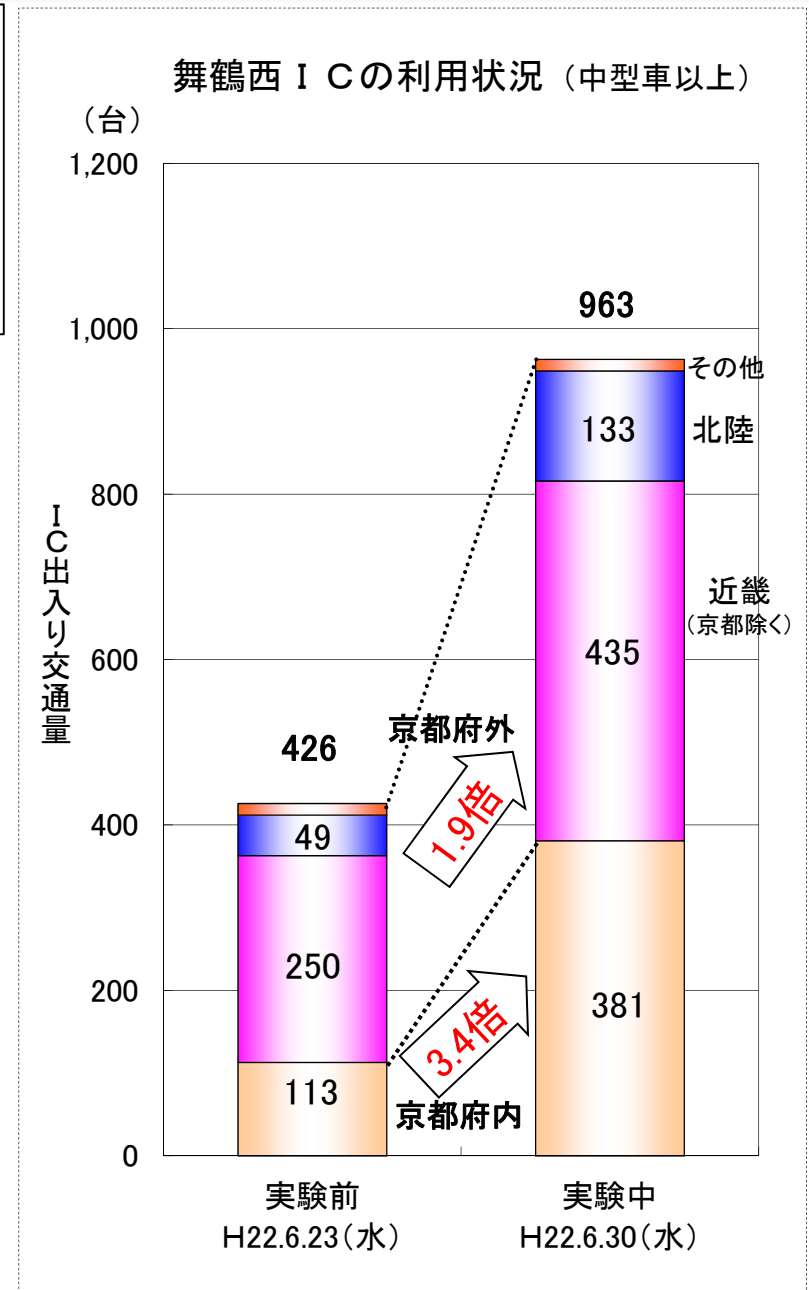
※² 港湾と空港で対象ICが2箇所重複しているため、合計が一致しない

(参考) 実験区間周辺の重要港湾・拠点空港



無料化社会実験による物流拠点の動向 [舞鶴港の例]

- 舞鶴港は、北東アジアやロシアとの対岸貿易の拠点
また、フェリー航路のターミナル港として海の玄関口の役割
- 舞鶴西ICでは、京都府内外とも物流車両の利用が大幅に増加し、物流効率化に寄与



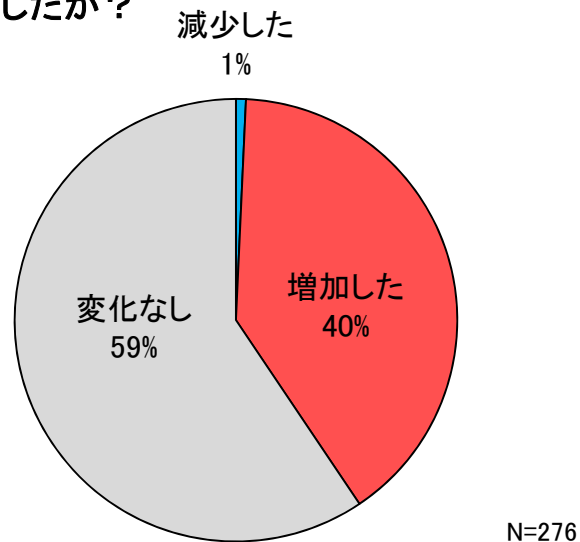
実験区間周辺の物流事業者へのヒアリング調査結果概要(1)

調査対象 : 無料化社会実験区間ICから50km圏内に立地し、かつ貨物の搬出のある物流関連事業所で、協力の得られた282箇所

調査期間 : 平成22年7月12日(月)～7月28日(水)

1. 高速道路利用回数の変化

Q. 無料化社会実験により、高速道路の利用回数は変化しましたか？



<増加した理由>

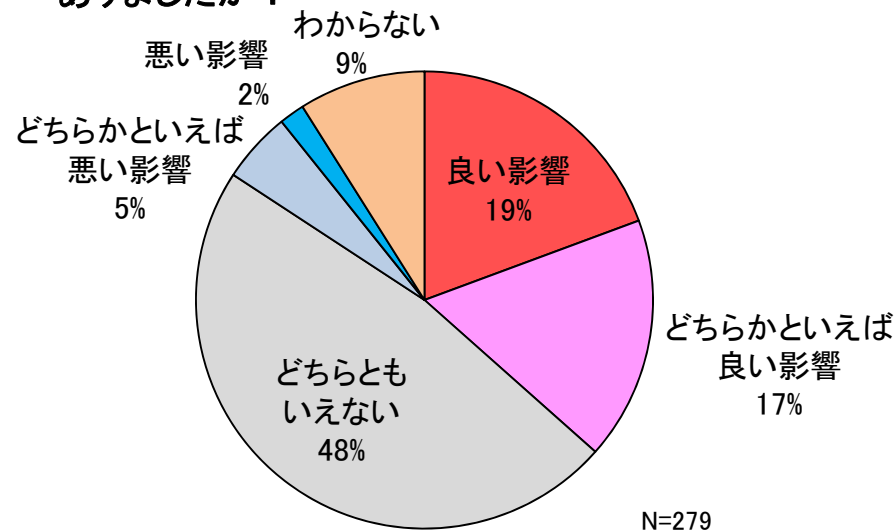
- ・ 以前は急ぎの時だけだったが、無料になったから、利用が増えた
- ・ 無料になったから、はじめて使うようになった
- ・ 復路で利用するようになった 等

<減少した理由>

- ・ 混雑時に迂回するため
- ・ 混雑で時間がかかるようになったため 等

2. 物流活動への影響

Q. 無料化社会実験により、物流活動への影響はありましたか？



<良い影響>

- ・ 時間短縮
- ・ 運行回数の増加
- ・ ドライバーの疲労軽減と事故防止
- ・ 混雑している市街地の回避
- ・ コスト削減 等

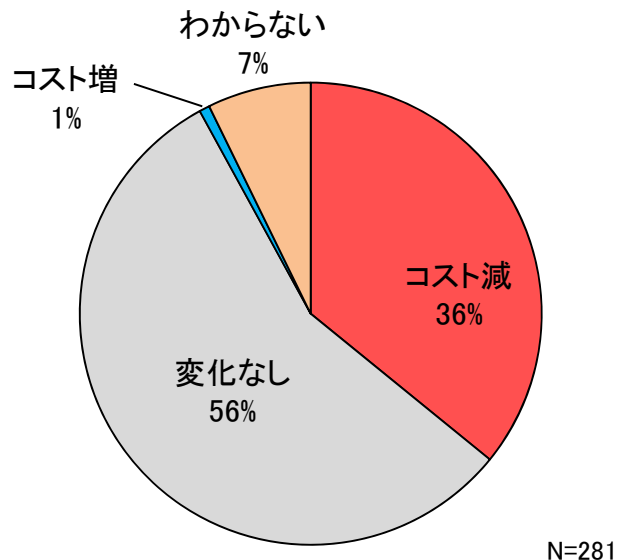
<悪い影響>

- ・ 混雑、渋滞で時間が読めなくなった 等

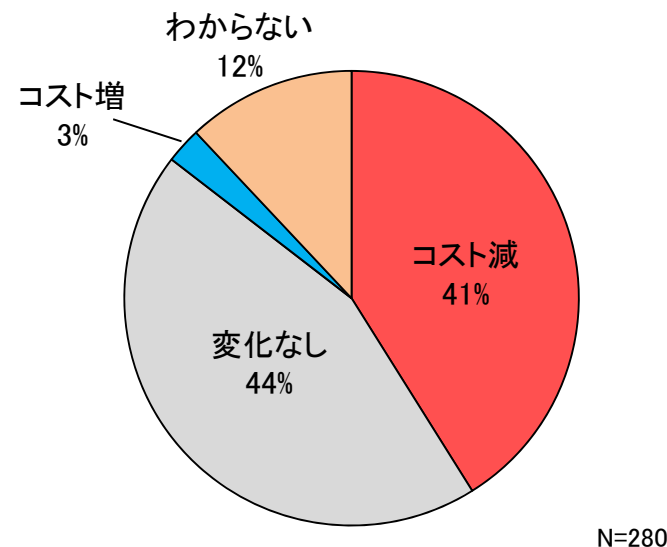
実験区間周辺の物流事業者へのヒアリング調査結果(2)

3. 物流コストの変化

Q.無料化社会実験により、現段階で、物流コストの変化はありましたか？



Q.将来的には、物流コストはどのようになるとお考えですか？(※平成23年3月末までの状況を想定)



※ヒアリングでは、下記の物流関連経費（コスト）の変化を質問

物流関連経費：輸送費（高速料金、燃料費、ドライバーの人件費、車両費等、運送事業者への委託費や備車費等）の他に、保管費（倉庫費）、包装費、荷役費、管理費を含む。

<コスト減の内容>

- ・ 高速道路料金がかからなくなった
- ・ 高速走行により燃費が向上したため、燃料代が節約できるようになった
- ・ 早く運べるので残業時間が減少し、人件費が削減できた 等

<コスト増の内容>

- ・ 交通量が増えて渋滞が起き、勤務時間が増加したため人件費が増加した
- ・ 高速走行できないために燃費が悪くなり、燃料代が増加した 等